

し
く
い
エ
ム



古
城
悠





桜の樹の下で見る夢は悪しきけわいに染
まると人の言う



昔、付きあっていたヤツが言った言葉だ。
今ならわかる、有名な詞章からのパクリ
だと。

A photograph of a brick building with a red metal structure and cherry blossoms in the foreground. The building has several arched windows and a red metal walkway or staircase. The foreground is a dark, wet surface, possibly a pool or a large puddle, reflecting the sky and the building. The sky is overcast and grey. The cherry blossoms are in full bloom, with pink and white petals. The overall mood is somewhat somber and nostalgic.

でも、あの頃はカッコいいことじゃ
んと思ったりしたものだ。まだ子供だっ
たんだろう。



あいつがいなくなって何年かが過ぎた。



きれいに咲いたあと、風に吹かれて桜が
散るように、あいつは自然にいなくなっ
た。わたしも追いかげなかった。きっと
大人になっていたんだろう。

A close-up photograph of several clusters of pink cherry blossom buds on a dark brown branch. The buds are in various stages of opening, showing shades of pink and yellow. The background is a soft, out-of-focus grey and white, suggesting a snowy or overcast day.

この頃なぜか、あいつのことを思い出す。
記憶のなかのあいつはいつしも桜の樹の下
でと囁いている。



ほかにも思い出はあるはずなのに、無理にたどらないと景色は浮かんでこない。夏祭り、夜店で金魚すくいをしたはずなのに、あいつの言葉は聞こえない。初詣、いっしょにお賽銭を投げたのに、なにをお願いしたのかも憶えていない。

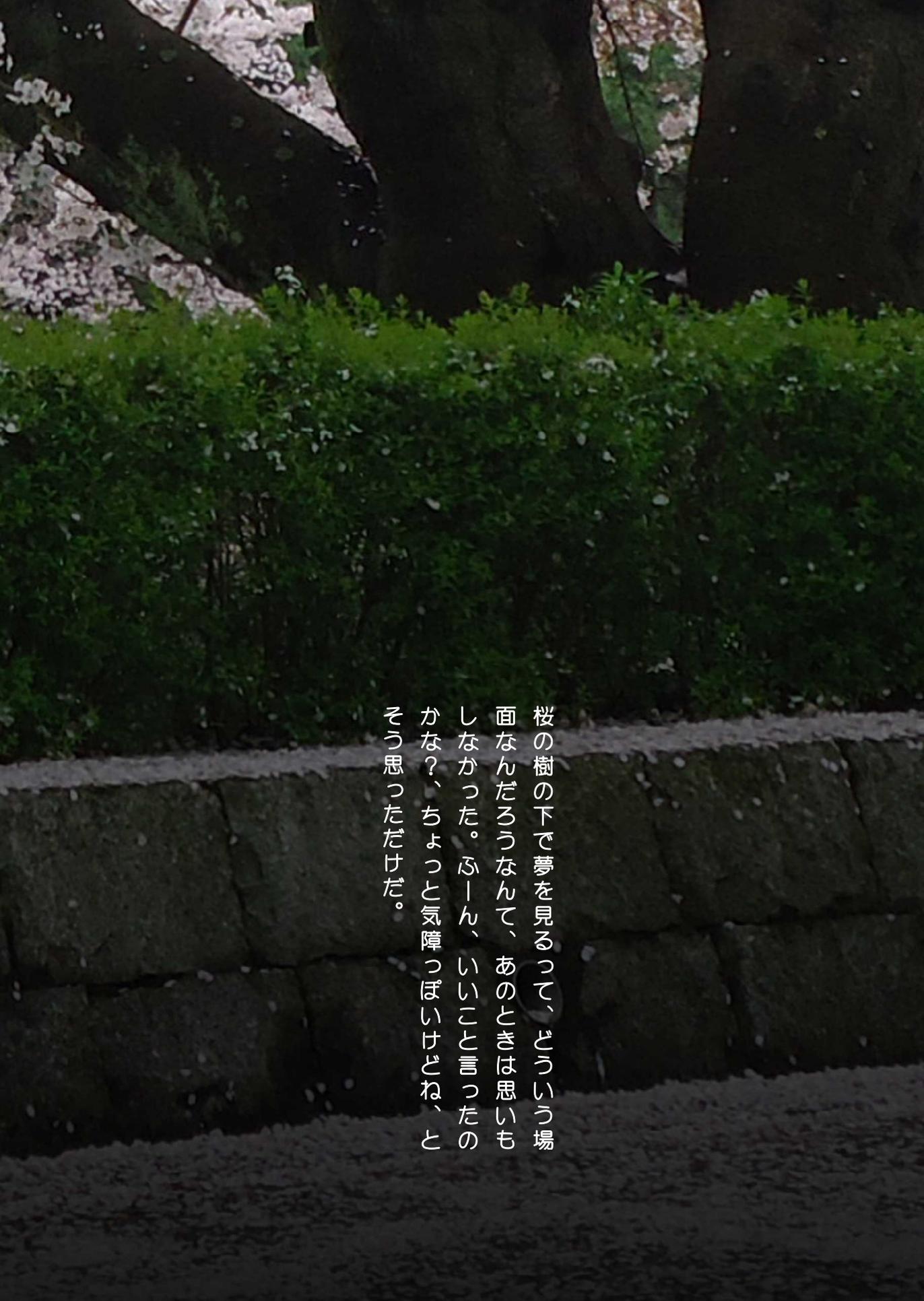


春になって水辺の遊歩道を並んで歩いた
とき、花を見上げてあーいはいっつーいた、

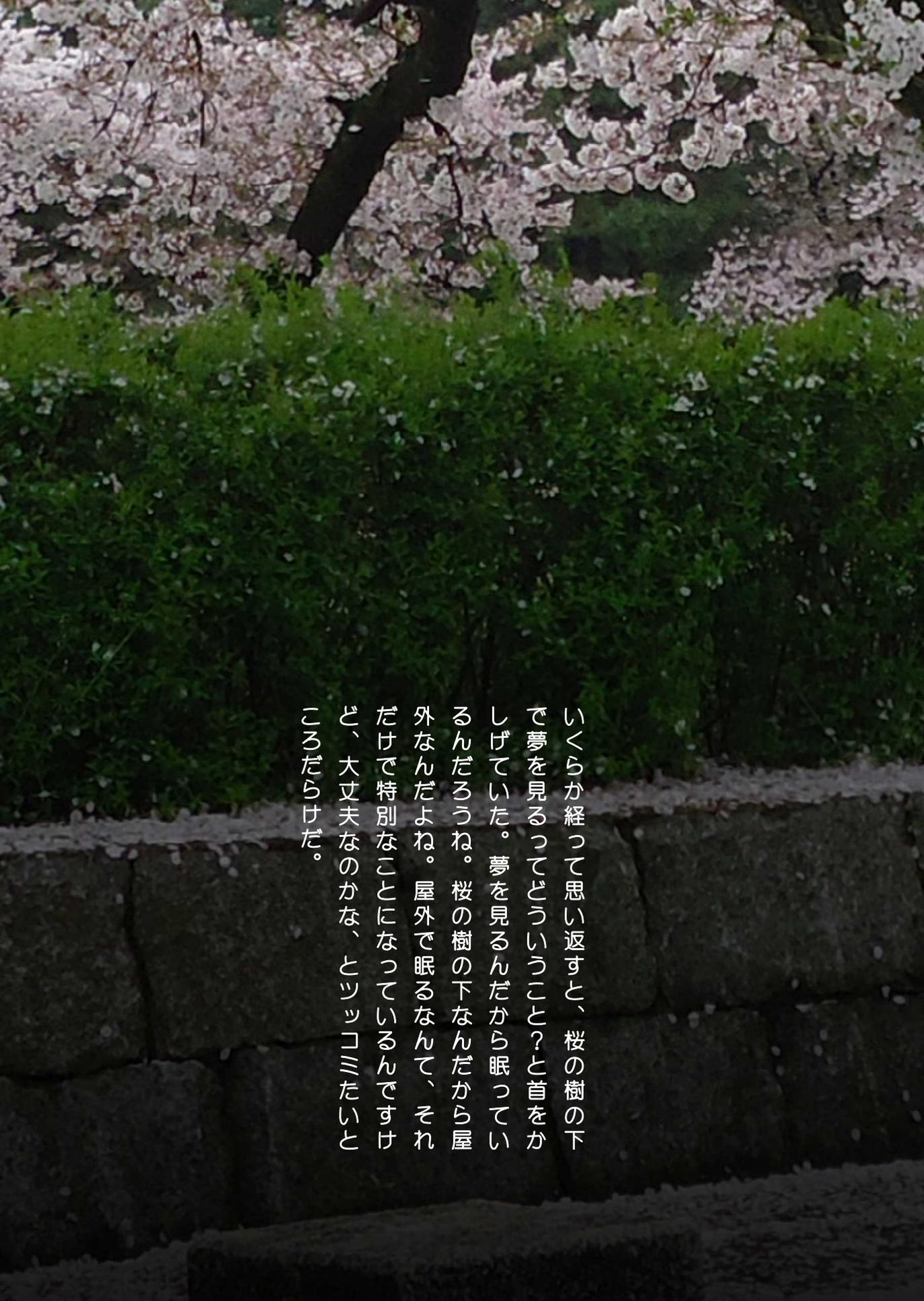


桜の樹の下で見る夢は悪しきけわいに染
まると人の言う。





桜の樹の下で夢を見るって、どういう場面なんだろうなんて、あのときは思いもしなかった。ふーん、いいこと言ったのかな？、ちょっと気障っばいけどね、とそう思ったただけだ。



いくらか経って思い返すと、桜の樹の下
で夢を見るってどういうこと？と首をか
しげていた。夢を見るんだから眠ってい
るんだろうね。桜の樹の下なんだから屋
外なんだよね。屋外で眠るなんて、それ
だけで特別なことになっているんですけ
ど、大丈夫なのかな、とツッコみたいと
ころだらけだ。



ああ、そうか、もしかするとあいつ、自分の言葉に酔っていただけなのかとも思う。これも今だからそう思えることなんだけど、そういう年頃って、たしかにある。それをカッコいいかも？って思うのと同じで、あいつもわたしも子供だったんだろう。

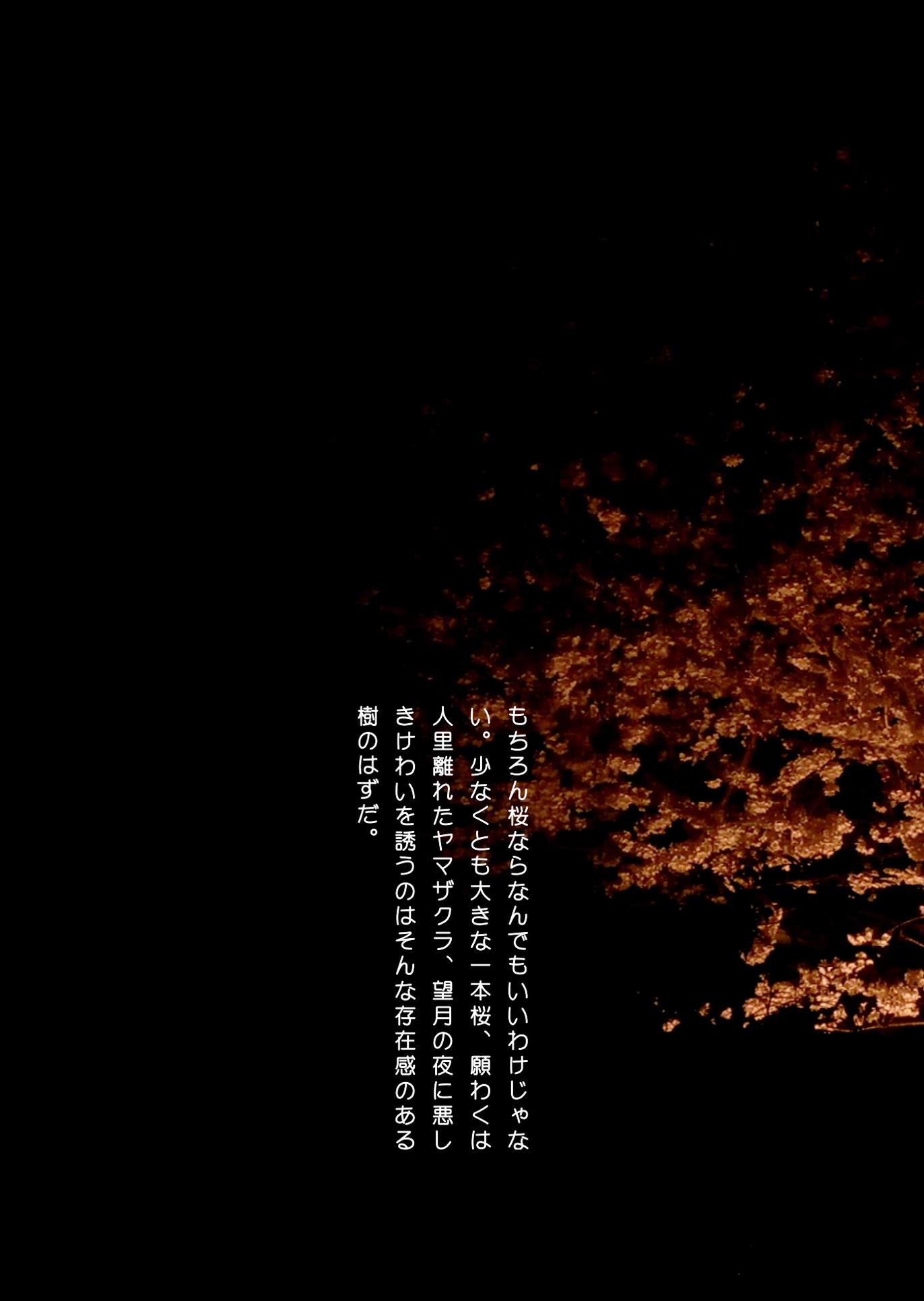


あいつを思い出すにつけ、桜の樹の下で
本当に夢を見てみたくなった。



木の根元からだを横たえてみる、すると次第に意識が遠のいていく、そうして夢うつつのあわいを彷徨っているうちにストンと落ちてくれる。そのあとで見る夢はどんなになっているんだろう。あいつの言う通り、悪しきけわいに染まるんだらうか。と、そんなことが知りたくな

った。



もちろん桜ならなんでもいいわけじゃない。少なくとも大きな一本桜、願わくは人里離れたヤマザクラ、望月の夜に悪しきけわいを誘うのはそんな存在感のある樹のはずだ。



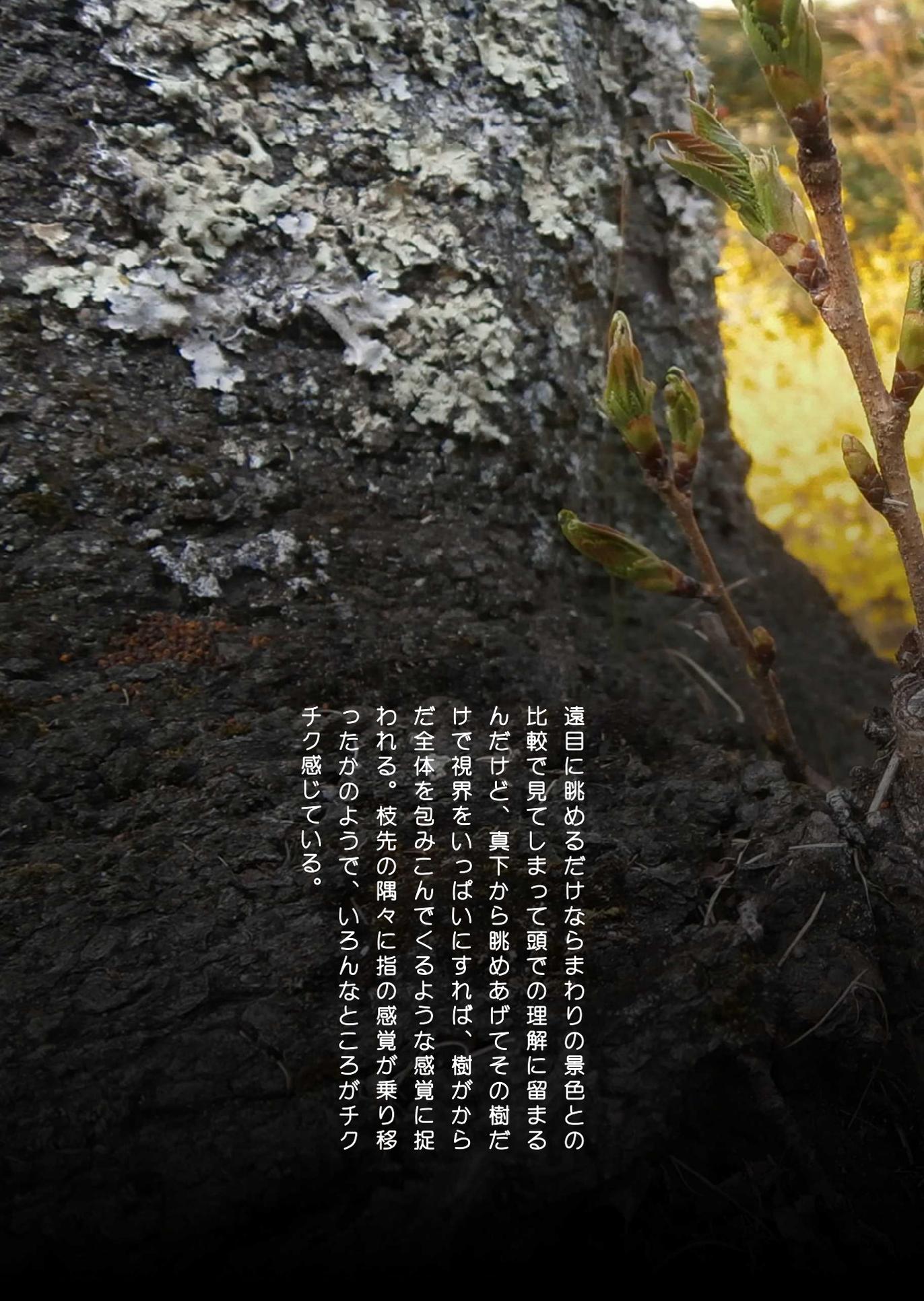
それでいくつかの場所をめぐるってきたあとで、ようやくここにたどり着いた。大きな樹だ。思いつきり腕を伸ばして幹ごと抱え込もうとしても半分にも届かない。端から見ると抱え込んでいるんじゃない。端から見ると抱え込んでいるか凭れかかっているかのように見えたことだろう。



それになによりも嬉しいのは蜘蛛手にひ
ろがる枝振りだ。ちょうどいい高さに太
い枝もある。



幹に張りつく態勢で見上げると、太い枝、
細い枝が複雑に重なって平衡感覚も失わ
れる。樹の大きさは、こうやって真下か
ら見上げたときに生身の感覚で捉えるこ
とができる。



遠目に眺めるだけならまわりの景色との比較で見えてしまっただけの理解に留まるんだけど、真下から眺めあげてその樹だけで視界をいっぱいにすれば、樹がからだ全体を包みこんでくるような感覚に捉われる。枝先の隅々に指の感覚が乗り移ったかのように、いろんなところがチクチク感じている。



そのチクチクに馴染んでくると、今度は
からだ全体が引き伸ばされていくよう
だ。



わたしの意識が樹に入り込んでい
るか、樹がわたしを吸い上げているの
か、なにか開放的な気分になっているの
かわかる。



闇の中に広がる花びらは、色も大きさも
上下の重なりも、よく分からない。



もとより立体感は失われているので平面
だと言われるとそうも見える。まるで黒
い壁に吹き付けられた薄銀色の飛沫だ。



風？、

平面に固定されているはずの飛沫が少し
揺れたかに見えた次の瞬間、それらはふ
わりと浮きあがり、続いて右へ左へと乱
れはじめた。

雪が舞う。花の季節だというのに？、いや雪じゃなくて花吹雪だ。強い風が吹き抜けたことで樹が春の吹雪を生んだらしい。巨大な桜の樹が何十本もあるその枝をいっせいに揺らせて花びらを散らしているんだ。

A dark, moody photograph of a river with white cherry blossoms in the foreground. The water is dark and rippled, reflecting the light from the blossoms. The blossoms are in sharp focus, while the background is dark and out of focus. The overall atmosphere is serene and nostalgic.

いつだったろう、よく似た風景に憶えがある。これと同じように雪かと紛う花吹雪のなかへ静かに落ちていった記憶。



あれも真っ暗な夜だった。暗闇のなかに
舞う花びらを、美しいではなくて艶めか
しいと思った。



おのれい、気持ちごと。



そうだ、あの時も時間が止まったんだっ
け、今と同じように。

A large, dense cherry blossom tree in full bloom, with a traditional Japanese wooden frame structure in the foreground. The tree is covered in light pink blossoms, and the frame is made of dark wood. The background shows a dark, silhouetted hillside under a pale sky.

いや、同じようにじゃなくて完全に同じだ。あの時を今もう一度繰り返し返しているんだ。

A photograph of a traditional Japanese building with a dark tiled roof and white walls. A large cherry blossom tree is in the foreground on the right, and a dark forested hill is in the background. The scene is dimly lit, suggesting dusk or dawn.

だとしたら、ほら、
やっぱり、頸には紐
がかかっている。



そうだった、あの時はこの枝で頸をくく
ったんだ。



そして、止まった時間のなかであいつの
声を聞いたんだっけ。耳を澄ませば今だ
って聞こえている、わたしを呼んでるあ
いつの声が。

A dramatic seascape with a large, dark, billowing cloud formation in the sky and a dark, rocky coastline in the foreground. The sky is a deep blue, and the sea is dark with white foam from the waves. The foreground is a dark, rocky shore. The text is written vertically in the center of the image.

そう、
今だからわかる、



わたし、もう少し、

生きていてもよかったんだって。

レクイエム
古城悠・オフィス 34
二〇二四年五月一日 第一刷発行

著者 古城悠
写真者 オフィス 34
発行者 秋水慧
発行所 オフィス 34

京都市下京区東中筋通五条上ル天使突抜二丁目三九四・一

埋め草

大江雉兎 定価・税込一〇〇円*直売価格
KINDLE版 AMAZONにて販売中

はじめての奥駈（山紫水明文庫）

苔迪散人・京都クルーズ・ザ・プロジェクト 定価・税込一〇〇円*直売価格
KINDLE版 AMAZONにて販売中

苔経雑録

大江雉兎 定価・送料・税込一八〇〇円（実書籍B6版一三六頁・お問い合わせ対応）

苔経雑録Ⅱ（近日刊）

大江雉兎

office34